大学生教育研究フォーラム2015
大学教育に必要なのは「プロジェクト」か「プロジェクト学習」か

インテグレーションセッション

京都外国語大学
マルチメディア教育研究センター
教授　村上正行

masayuki@murakami-lab.org

Twitter ID: @munyon74

村上正行

京都外国語大学　マルチメディア教育研究センター
教授

・専門：教育工学・大学教育学
・出身：大阪市の南のほう・たこ焼き屋のせがれ

むーにょん

・ICTを活用した教育
　・特にソーシャルメディアの活用
・大学教育の改善・FD

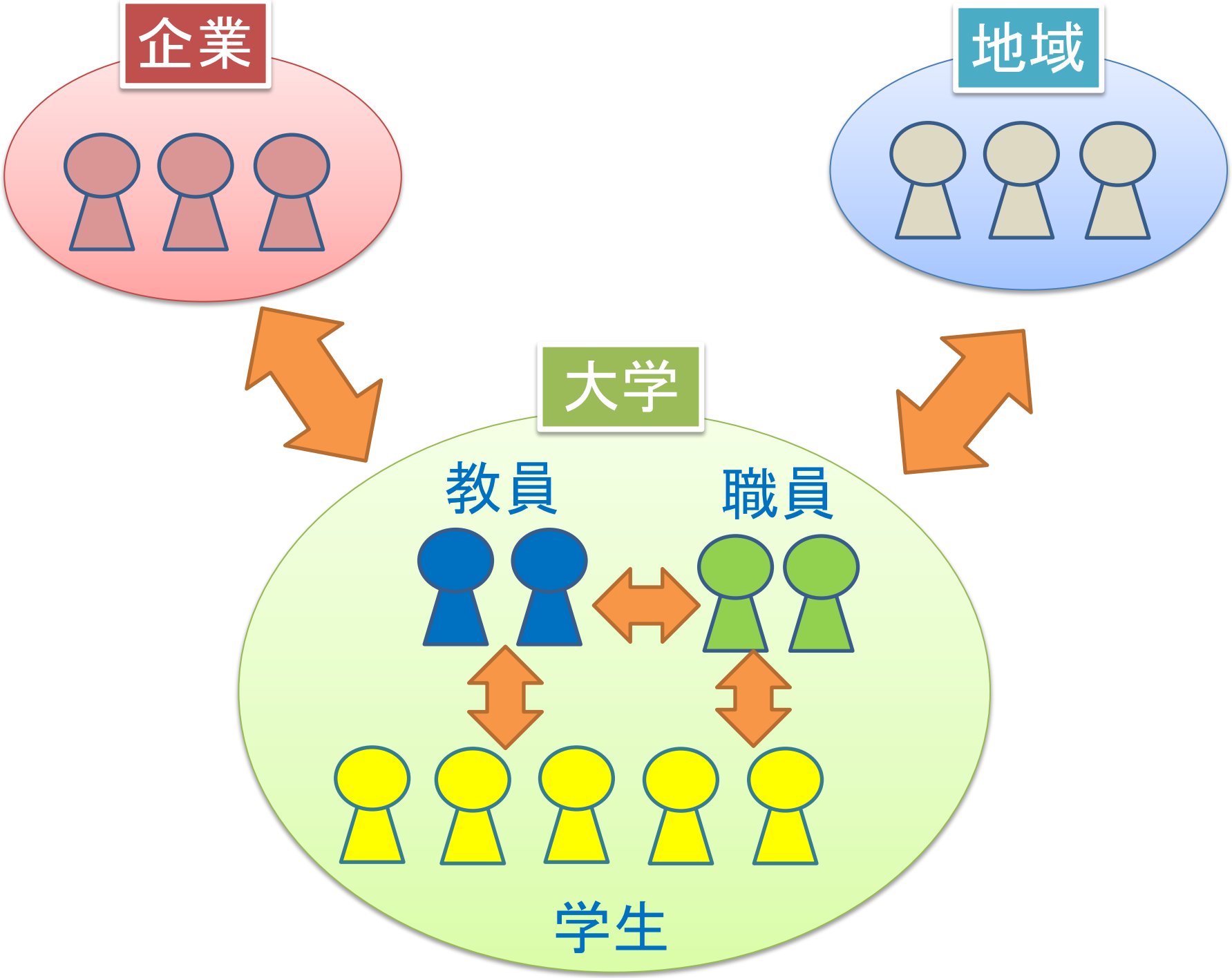
・京都外国語大学　FD委員長
・大学コンソーシアム京都FDフォーラム委員長
・日本教育工学会　SIG-高等教育・FD 代表

ピースセッション 1-1、2-1を聞いて考えたこと

むーにょん

“当事者”として
プロジェクト学習を
とらえよう！

“当事者”って、
誰のことやねん？


企業
地域
大学
教員
職員
学生

自分が当事者になる！
いろんな立場の人と
議論し、関わる
相手の立場を考える
（当事者になる）

【1-1】社会と直結する力を育てる

①未来を創る『主体的な学び』を実践する」

平山 恭子＠Future Skills Project 研究会事務局

②自己を社会の中に文脈化するリフレクション手法：科目『体験の言語化』の開発

岩井 雪乃＠早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

未来を創る『主体的な学び』を実践する」

スキルじゃない、マインドなんだ！

興味のあることにだけ
発揮する主体性ではだめ！

課題は、企業のリアル
14コマで2企業の課題→概念の生成から実践へ

もっと知識がないと
議論が深まらない

本気にならないと
成長しないんだな

自己を社会の中に文脈化する
リフレクション手法

ボランティアに行っても
「すごくよかった！」で終わりがち

批評は得意・頭でっかち

自己を社会の中に文脈化する
リフレクション手法

ボランティアに行っても
「すごくよ

っかち

学生が「語る」

科目「体験の言語化」の開発
「自分の体験」と「社会の課題」をつなげる

教員は学生が言語化するプロセスを「支援」

自己を社会に文脈化する

【2-1】地域と学校教育との接点

①これまでの地域開発の研究から
　　学校の地域連携事業がどう見えるか？

松永 桂子＠大阪市立大学大学院

②地域の未来を切り拓く
　　グローカル教育プロジェクト

中村 怜詞＠島根県立隠岐島前高

これまでの地域開発の研究から学校の地域連携事業がどう見えるか？

地方の抱える問題
人口減・少子化・超高齢化

活性化している地方
「人が人を呼ぶ」
（徳島県神山町、島根県邑南町）

「経済的価値」と「社会的価値」の両立

これまでの地域開発の研究から学校の地域連携事業がどう見えるか？

ますます業績志向になっていく社会において、**計量単位は重要**である。計量するものによってわれわれの行動は影響を受ける。

サルコジ　フランス前大統領

「経済的価値」と「社会的価値」の両立

地域の未来を切り拓く
グローカル教育プロジェクト

地方衰退の一因は教育でした。

合計特殊出生率から
地方が供給、都市が受入

教育を変える！
生徒の自立　地方の自立

「生徒を社会につなげる」のが役割

島全体が「学校」
地域の方も「先生」

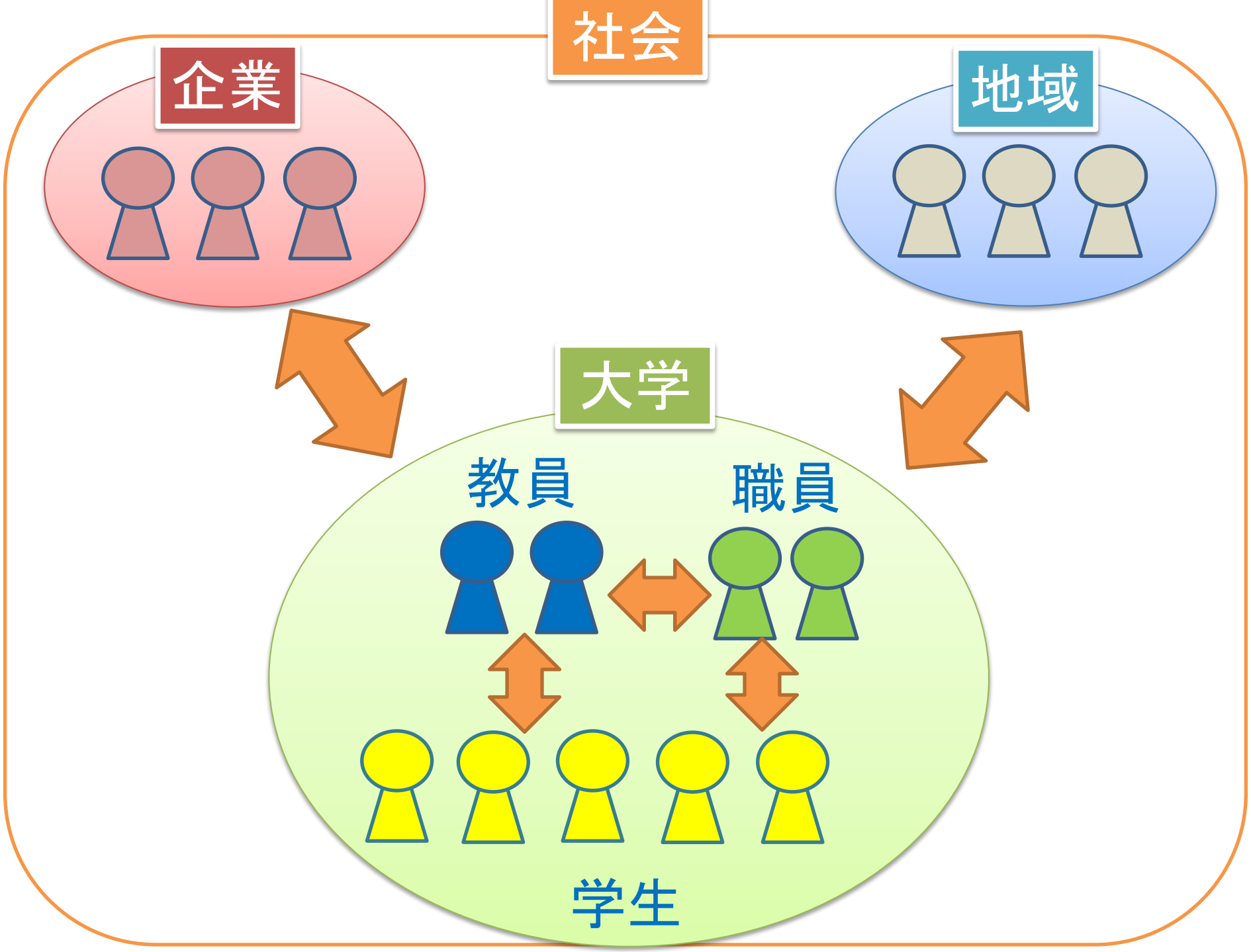
広い視野を持った
グローカル人材に

ピースセッション 1-1、2-1を聞いて考えたこと

むーにょん

愛だろ、愛っ！

むーにょん


社会
企業
地域
大学
教員
職員
学生

○○愛着が重要！

大学愛着、地域愛着
企業愛着、社会への愛着

みんなで
自分ととと
とらえて
議論しましょう！

むーにょん